

誤飲

まず、何をどのくらいの量飲んだのか
落ち着いて確認しましょう。

すぐに/

救急車を呼んだほうが良い場合

- ・意識が無い。けいれんが止まらない。
呼吸がおかしい。
- ・塩酸、苛性ソーダ、除草剤、パラコート、有機リン系
殺虫剤、トイレ洗浄剤、業務用漂白剤などの誤飲

※受診の際には飲んだものの容器、説明書、嘔吐物などを持っていきましょう。

すぐに/

医療機関を受診したほうがよい場合

- ・顔色が悪い。
- ・嘔気、嘔吐がある。
- ・けいれんを起こした。
- ・飲み込んだ直後に激しく咳き込んだ。

すぐに吐かせたほうがよい場合

タバコ(2cm以上食べた、食べた量がわからない、または灰皿の水を飲んだ)、ホウ酸団子、ナフタリン、パラジクロルベンゼン、医薬品、芳香剤、消臭剤、洗剤の誤飲

すぐに吐かせてはいけない場合

- ・6ヶ月未満の乳児。
- ・意識障害、けいれんがあるとき。
- ・重症の心臓病や不整脈があるとき。
- ・揮発性のもの、酸・アルカリ、固形物(特に尖った物)を誤飲したとき。
ボタン電池、硬貨、灯油、シンナー、ベンジン、除光液、漂白剤など

何もせず様子を見て大丈夫な場合

- ・顔色もよく、吐気も無く、息苦しさも無い。
- ・少量のタバコ(2cm未満)、ビニール製品、硬貨、紙製品、消しゴム、鉛筆の芯、チョコレート、絵の具、クレヨン、粘土、ろうそく、線香、蚊取り線香、口紅、クレンジー、シリカゲル、入浴剤、練り歯磨き、糊の誤飲

☎ 対応がわからないときの相談窓口 (日本中毒相談センター)

●中毒110番 (情報料：無料)

【大阪】072-727-2499 (365日/24時間)

【つくば】029-852-9999 (365日/9時~21時)

●タバコ専用電話

(情報料：無料、テープによる一般市民向け情報提供)

072-726-9922 (365日/24時間)

HOME



ホームケアのポイント

- 口の中を覗いて物が見えたら、押し込まないように注意しながら指でかき出しましょう。
喉の奥を指で探ってはいけません。
- 誤飲した場合の共通の処置
 - ・液状のものは、皮膚や目についてないかを調べ、付いていれば流水で15分以上洗いましょう。
 - ・多量の水を飲ませることは、吐かせるための前処置として行う以外は止めましょう。
かえって毒物を溶かしたり吸収をうながしたりしてしまいます。
- 強酸や強アルカリなどの腐食性物質を誤飲した場合の処置
 - ・絶対に吐かせてはいけません。
 - ・すぐに多量の牛乳を飲ませましょう。
 - ・必ず病院へ行って診察を受けましょう。
- 次の物質は脂溶性なので牛乳を飲ませてはいけません。
農薬、殺鼠剤、殺虫剤、防虫剤

